

●山形県東置賜郡高島町
高安犬は飼われていた
「高安犬」は筋肉質で、引き
しまった体型。優秀な
マタギ犬で、熊などの獣捕
や五目猟に使われていたが、
昭和初期に絶滅した。

高安犬物語

●作家戸川幸夫
氏が昭和30年代
にこの犬種
最後の「頭
「チン」の姿
を描いた作品
「チン」の最期は
フィリアで死亡。その
勇姿を複製として
残そうとしたが、
複製師のウデが
悪くて失敗。結局
埋葬していった。



高安犬には
いろいろな特徴
があるけど、体型
が犬張子と思っ
てらるんだけ
で、私に勝手な
（吉のイメー
ジ）

かざり目
かざりのように
横に伸びている
目の形

犬張子
のような
厚い胸

私の勝手な
（吉のイメー
ジ）

マタギ
犬種
「チン」
の姿
を描いた
作品
「チン」
の最期
はフィ
リアで
死亡。そ
の勇姿
を複製
として
残そう
とした
が、複製
師のウ
デが悪
くて失
敗。結
局埋葬
してい
った。

1912
～2004
戸川幸夫氏



目だけか
うす茶色

差し尾
巻がすに前方
に傾斜した
ほうが
より良い。
山道を
早く走
れる

太い脚

周辺が山々
に囲まれて
いて、街並
はトロピ
コプ

犬宮

犬宮の
おふだ



●正式名称
「犬の宮南無六道能化
地蔵尊」という。
●周辺の山、豪土山
や駒ヶ岳など登山が
楽しめる

2頭の狛犬
は昭和9年に
高安集落の石工
が高安犬をモデル
に彫ったものだ



●高島には高安犬、猫宮という小さな神社が
山間にぽつぽつとある。その名のお
り猫と犬を祀った神社で、どちらも入
間を危機から救った縁起由来の伝説が
思い浮かんだ。

●高島には高安犬、猫宮という小さな神社が
山間にぽつぽつとある。その名のお
り猫と犬を祀った神社で、どちらも入
間を危機から救った縁起由来の伝説が
思い浮かんだ。

●高島には高安犬、猫宮という小さな神社が
山間にぽつぽつとある。その名のお
り猫と犬を祀った神社で、どちらも入
間を危機から救った縁起由来の伝説が
思い浮かんだ。

山形高島高安犬



「おじさんは
犬は大事にしないと
いけない」とよく
言っていましたよ

椿
勉さん

●椿さんは
シズ中「松道会館」
を営む。チンは生き
ている間に熊46頭
をも仕留めたという。
吉さんは昭和45年に亡
くなったが、椿さんは健在だか...

犬宮猫宮



戸川氏が
撮影した「チン」

●犬の宮、猫の宮に描かれた
時代は 奈良時代～平安時代
のはじめ。各宮とも昔は、
かやぶき屋根だったという。
亡くなったハットの写真は、S.50年
頃からだんだん
ふえていた
という

32代目
17代目
原本は
行方不明
とか...

高島町観光協会
〒999-2173 山形県
東置賜郡高島町大字
山崎 200-1
TEL 0238-57-3844
FAX 0238-57-4178
—URL—
http://www.takahata
.info

●高島には高安犬、猫宮という小さな神社が
山間にぽつぽつとある。その名のお
り猫と犬を祀った神社で、どちらも入
間を危機から救った縁起由来の伝説が
思い浮かんだ。

●高島には高安犬、猫宮という小さな神社が
山間にぽつぽつとある。その名のお
り猫と犬を祀った神社で、どちらも入
間を危機から救った縁起由来の伝説が
思い浮かんだ。

高安犬と犬宮・猫宮



猫宮

●猫の宮は昔、養蚕の神様として信仰があつた。元は小さな祠だったが明治になって社になつたという。



愛猫家の皆様へ
ここを訪れる人は猫好きさんばかりとは限りません。猫にばかりあつた後は、三毛猫器は持ち帰りましょう。お食料をあげたら、お水をあげてください。お水をあげてください。

真冬以外は、のら猫が空に飛ぶ事が多い

全国ペット供養祭



猫宮由来記

昔、高安の下子易に庄左衛門とおみねという信女が、庄屋の夫婦が住んでいて、二人は子宝に恵まれず、猫を心から可愛がっていたが、なぜか次々と病死してしまつた。二人は丈夫な猫を探かのように祈つた。ある夜夢枕に観音菩薩が現れ、「猫を授けるから大事に育てよ」とお告げがあった。翌朝三毛猫が現れ、夫婦は大変喜び「玉」と名付けた。玉は不思議におみねの行くところどこでも付いて、はやたり天井をのらみうたりして、さすがに段々気味が悪くなつたのである。玉が同じ素振りをした時、庄右衛門は刀で玉の首を振り落とした。その首が宙を飛び、屋根裏にひそんで、おみねを殺そうと狙っていた大蛇にかみついた。夫婦は大いにくやみ、猫を手厚く葬り、堂を建てた。大蛇は昔退治された古狸の血をなめた蛇が妖化したものだった。



ある。猫宮は犬宮より百年ほど後に建てられたものだというのがその伝説が、村人のために化け狸を退治した犬宮伝説と深く関わっているというのが面白い。犬宮の主人公犬は甲斐の三毛犬と四毛犬で、高安犬のルーツが甲斐犬だといわれているのもうなずけるのだけだ。高安犬はどちらかというと北海道犬のカイくんイメージに近いかな。今回は雪に埋もれて見られなかったが、社頭を守る二頭の狒犬は昭和九年に高安犬をモデルに彫られたものだといふ。犬宮別当の大高典道住職（林照院）、猫宮別当の村上正法住職（清松院）に話を聞いた。

「宮は古く、それこそ和銅年間くらいからといわれていますが、昭和五〇年頃のペットブームから訪れる人が圧倒的に増えましたね。病氣平癒もたまにはありますが、ほとんどが亡くなったペットの供養ですね」

確かに両宮とも、観音扉にたくさん首輪や写真など朽ちかけたものから新しいものまでピッタリ貼つてあるのだ。毎年七月の第四土曜日に「全国ペット供養祭」と銘打って犬宮猫宮合同の供養をしている。「五年ほど前から犬は土葬禁止になったので、地区内に専用火葬場ができるというんですが」という理由が、狸が犬の亡骸を掘り起こしてしまうからさうだ。いやはやいまだに伝説の攻防戦は続いているのだろうか。ちなみに私が今一番飼いたい犬種はやっぱりハスキー犬だな。



「高安、犬宮並びに猫宮由来記」
—小川弘(訳)—

犬宮由来記

今から千二百年も昔のこと、この里に地頭に化けた古大狸がいて、長年、人年貢を取って、人々を苦しめ嘆かせていた。ある時一人の座頭がこの里に托鉢に来て、今年娘を差し出す家の悲しみを聞いた。その夜村はずれのほらで二夜を明かすとどこからか「イイイイイイイイイイイイイイイイイイ」と三毛犬四毛犬に聞こえるさうな歌が聞こえてきた。座頭は村にもどり、「早速甲斐の国八代郡宝性大神の宮大(三毛犬)四毛犬(すげ)を借り、この二匹の犬によつて悪魔を退除すべし」と言ふまじく、すまに使者を送り、宮大を借りた。そして里の地頭や番人召入らる酒席をもつて、地頭達が酔いつぶれると、三毛四毛の二匹の犬を放つた。しばらくの間、雨者の噛みあう音は物すごいものだった。戦いが終る見に行くと、室中血みじろておびただしい古狸のむらと傷つき果てた二匹の犬の姿があった。夜がしつぱりと明けはじめる。はるか南方の峯より鬘の方に紫雲がたなびき、神の姿の座頭があらわれた。「よい、か、よい、か、この雨犬こそ甲斐の国の宝性大菩薩のつかひした有難い宮大である。決して粗末にするでないぞ。ゆれば座頭に姿を変えた愛宕山の地蔵権現で、長年の村のなやみを払いのけたのだ。二匹の犬の体を葬り祠を建て、鎮守と仰ぎ、大宮子易聖真子権現とあかめよ」と言ふまじく、その時に座頭が一首詠じた。

「天降風雲も霞も吹き晴らし法の林を照らす日の影——
有難や有難や、村人は早速このお告げ通りに西の沢(宮へ入地内)の山麓に御堂を建て、大の宮として祀らたという」